



円広志、やしきたかじん、トミーズ健
 といえば関西ローカル芸人の代表格であるが、円広志、中島みゆき、藤井フミヤの共通点と言われれば何だかおわかりだろうか？ 答えは「ポプコン出身者」である。ポプコンとは1969年から1986年まで毎年開催されたヤマハ主催の「ポピュラーソングコンテスト」のことである。アマチュアを対象にしたオリジナル曲発表の祭典であり、コマーシャルズムに毒されない、新鮮でユニークなアマチュアコンテストとして幅広く若者達の中に浸透した、知る人ぞ知る権威ある大会である。上記のほかにも、「SAY YES」や「万里の河」で有名なCHAGE & 飛鳥、「待つわ」のあみん、「大都会」のクリスタ

「ポプコン・スーパーセレクション 雅夢ベスト」より

愛はかげろう



ルキングなど、多くのシンガー・ソングライターを世に送り出した。

今回ご紹介するのは、そのポプコンで1980年に優秀賞を受賞してプロデビューした雅夢という男性デュオである。雅夢は三浦和人、中川敏一の二人組で、受賞曲でありデビュー曲でもある「愛はかげろう」は当時多くの人々の心を動かし、愛する人との別れを受け入れきれない心情を歌った切ないバラードで、思わず上を見上げて「あ～あ」と感慨に耽りたくなるような名曲である。「愛はかげ

ろう、つかの間の命、激しいまでに燃やし続けて」。そんな燃えるような恋を一度はしてみたいものである。ま、私にはそんな体力も気力もないが。

中森明菜などもカヴァーしているこの曲であるが、今また一部で話題となっている。というのもこの「愛のかげろう」、昨年異常なブームを巻き起こした「冬のソナタ」の主題歌「最初から今まで」に非常に似ているのである。三浦和人本人も、自身のコンサートで「冬ソナ歌いま～す」なんて言っているらしい。もちろん「愛のかげろう」が発表されたのは1980年であり、「冬のソナタ」なんてまだなかったのだから、少なくとも雅夢側が盗作したわけではない。昔雅夢のファンであって、現在冬ソナファンとなっているオバサマ方は複雑な心境であろう……。



虚航船団

著・筒井康隆

BOOK



「まずコンパスが登場する」に始まり、なぜか文房具と魑が戦争するという終始一貫して荒唐無稽さを描いた作品『虚航船団』。3つの章から構成され、第1章では登場人物である文房具の紹介が主で、舞台は宇宙船。閉鎖的かつ不自由な世界の中で個性豊かな文房具の気が狂っている様子が描かれる。そして、彼らに与えられる任務とは？ 一転して、第2章では「三角定規」によって調べられた魑の世界史が展開される。流刑にあいクォールという惑星に流された魑が文明を築き上げていくのだが、その内容はわれわれが背負ってきた世界史のパラレルとなっていて、われわれの紀元後の歴史を半分に圧縮したようになっている。歴史が始まって999年、核弾頭とともに文房具た

ちが襲来。そして、第3章。果たして結末は……。

昨シーズンの人気ドラマ「富豪刑事」の原作者でドラマにも出ていた筒井康隆。長編・短編ともに傑作揃いの、知らない人はいない超有名作家である。しかし、本書はこの内容にしてなんと500ページを超える大作なのである。読むのに多少の気合はいるだろう。それでいてページを次々にめくってしまうのは、テンポのよさとバラエティーに富んだ内容故だろうか？ まさにナンセンスがセンスになるときである。

999年で当然思い出されるのは1999年。みなさんの中にはノストラダムスの大予言を信じていた方はおられるだろうか？ 2005年を迎えた今、滑稽にしか

映らないかもしれない。だが、未だ止まないトンデモの世界における終末思想、あながち笑ってられないのではないだろう。

では、本書に読み方などあるのだろうか。解説にありがちな「現代社会へのテーゼ」へのテーゼ？ なるほど、そう読むのも一興かもしれない。あるいは、屍体嗜好の「伝玄墨汁」に性的に倒錯した「のり」など人間の持ちうる「おかしな」部分を戯画化していて、冷笑的だと読めないこともない。しかし、まず、シュールな世界にひたること、そこから話が始まるのではないだろうか？ では虚航の旅に出かけることにしましょうか？

はみだし
 すてーじ

「はみだしすてーじ」がクロスワード以外のページでもはみ出しているのを初めて知りました。
 ⇒ここに載せちゃいましたけど大丈夫ですよ？

(他 ろどすた)
 (もう見てくれますよね；編)